

## 概要版

～市民一人ひとりが輝き参加し、心ふれあう  
個性豊かな協働のまちづくり～

# 協働のまちづくり推進指針

三沢市では、市民と行政がお互い対等の立場で進める“協働のまちづくり”についてその方向性を示す指針を策定しました。

この指針（概要版）は、平成21年度に立ち上げた市民15名による「協働のまちづくり市民会議」が2年間会議を重ねて作り上げたものを抜粋しまとめたものです。

これから、この指針に沿って協働によるまちづくりを市民の皆さんとともに取り組んでいきます。



これからのまちづくりには、今までの行政主導型で住民からの要望に行政が応えるといった「行政がやってくれる」のを待っているのではなく、市民の皆さんと行政が地域の課題について共通の理解をし、協力・連携して進めることが求められています。

市民の皆さんと行政がそれぞれ知恵を出し合って、「三沢市のためにこんなことをしてみたい」、「こんな三沢市にしたい」という想いを実現していくまちづくりを目指します。

## 1. 協働のまちづくりはなぜ必要になってきているの？

### (1) 変化する社会状況

少子高齢化や経済状況の低迷など、私たちを取り巻く社会状況が変化の中で住民ニーズも複雑・多様化してきています。現在の行政では、限られた財源で今までのような市民サービスを提供することが難しくなってきました。

これからのまちづくりは、市民の皆さんと行政が対等の立場で話し合いながら進めることが求められています。



### (2) 助け合いの意識の低下

これまでの地域コミュニティには、市民同士の「助け合いの意識」がありました。しかし、現在は地域の関わりが低下して、自治活動や互助活動の機能が低下してきているため、地域の結びつきや助け合いの意識を高める必要があります。

### (3) 市民活動の活発化

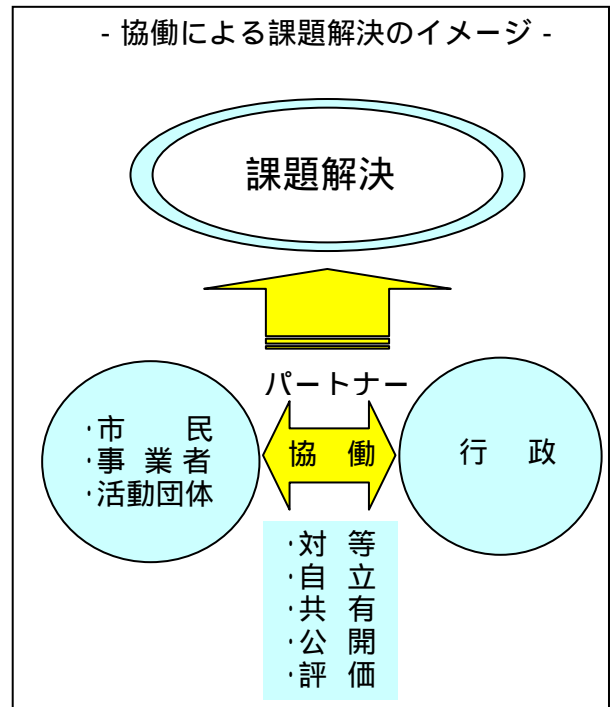
NPOなどの市民活動団体や企業のボランティアなど、自主的な活動をする団体が増えてきており、地域や市民の力が注目されています。専門性や創造性、先駆性などを持つ市民活動団体などと協働して課題を解決することへの期待が高まっています。



## 2. 協働ってどういうこと？

「協働」とは、一言で言うと「地域に関わる様々な立場の人や組織が、共通の目的を実現するために、対等の立場で一緒に汗を流して取り組むこと」です。

まちづくりの主体である、町内会、市民活動団体、事業者、市民、行政それぞれが役割を自覚し、協力・連携しながら地域の課題等に関して共通の認識を持って取り組むことがよりよいまちづくりにつながります。そのためには、いくつかの原則（ルール）が必要です。



### 協働の原則（ルール）

対等と相互理解...市民と行政は、お互い対等のパートナーです。

自立と自主性...協働のパートナーはそれぞれ自立し、自主性を重視しなければなりません。

目的と情報の共有...協働のパートナーは、話し合いながらお互いの情報を共有します。

公開性・透明性...取り組み内容について広く公開し、透明性をもたせます。

評価...協働で行った事業は、振り返り・検証し、次の事業につなげていきます。

## 3. 私たちは何をすればいいの？

協働を進めるためには、それぞれの立場によって役割があります。

それぞれが、役割やルールを意識して行動することにより信頼関係を作り、協働のまちづくりを進めていきます。



### (1) 町内会

町内会は、市民の一番身近な団体として重要な役割を持っていますが、加入率の低下や高齢化など、様々な課題を抱えています。



若い世代が参加しやすい活動の工夫  
近隣町内会との連携

### (2) 市民活動団体（NPOやボランティア団体、サークルなど）

市民活動団体には、行政にはない特性（先駆性、柔軟性など）があり、その特性を活かした活動に期待が集まっていますが、その活動はあまり市民に知られていません。



自分たちの活動を広く市民に発信する。  
他の団体とネットワークを築き、活動の幅を広げる。  
活動資金の確実な確保

### (3) 事業者

事業者も地域社会の一員として協働のまちづくりには欠かせない主体ですが、「社会貢献活動」のような活動をしている事業者はまだ一部です。



地域の課題についての情報収集  
業者が持っている情報や技術を地域と共有する。

### (4) 市民

市民には、行政に頼りすぎることや市政に対する無関心、活動に消極的などの課題があります。



身の回りの情報を積極的に収集  
地域の活動に積極的に参加し、共通の課題を認識する。

### (5) 行政

行政には、協働を推進するため、地域の課題について良く理解し、それを解決するための基盤の整備が求められます。



市民活動がスムーズに行われるための支援  
市職員の意識改革  
市の情報の積極的な提供  
リーダー的人材の育成

## 4. 協働の方法ってあるの？

協働によって事業を進める際には、事業の目的や内容などによって「補助金・助成金、共催、後援、協働委託」など様々な形態がありますが、最も効果的な方法を選択することが重要になってきます。

## 5. これからどんなことをしていくの？

協働のまちづくりを推進するためには、様々な取組みを組合わせて進めなければなりません。市では、これから協働のまちづくりを進めるため次の取組みを検討、実施していきます。

### 1 市民のための取組み

#### (1) 意識啓発・人育て

協働によるまちづくりは、市全体で「自分達のまちを自分達で良くしていく」という意識をもって進めなければなりません。また、まちづくりのためのリーダー的人材が必要にもなります。そのために、意識啓発のための研修会や講演会の開催、また人材を育成するための講座を開催します。

#### (2) 市民活動の支援

協働によるまちづくりを進めるには、その主体として期待されている市民活動団体を支援する仕組みが必要です。市民活動団体が提案する公益的な事業を支援する仕組みや、財政的な支援をする制度について検討していきます。

#### (3) 拠点の整備

市民活動を活発にするためには、団体同士のネットワークづくりが不可欠です。そのためには、情報発信、情報交換できる拠点施設の整備や相談窓口の設置などを進めていきます。

## 2 市全体での取組み

### 仕組みづくり

この指針を有効なものにするためには、協働のまちづくりを進めるための組織の設置や、各種団体と行政がお互いに理解を深めるための意見交換ができる仕組み、地域の環境整備のための仕組み等について検討します。

## 3 市役所内での取組み

### 市役所内の推進体制

協働のまちづくりを進めるためには、市役所内の推進体制を整えなければなりません。協働の相手方と信頼関係を築き、スムーズに事業を進めるために、庁内の横断的な組織の設置や、理解を深め意識を啓発するための研修を実施します。また、町内会との連携を深めるための行政連絡員の活用や協働に関するマニュアルを作成するなど意識の向上に努めます。



市民の皆さんが、「三沢市」で暮らしているなかで、何か「こんなことしたいな」「こんなことができたらいいのにな」と思うことはありませんか？

もしあったら...身近な人に相談してみてください。誰でもいいんです。町内会の人、市役所の担当者、まちづくり活動をしている団体...

そこから「協働」は始まります。

そういう、皆さんの「まちづくり」に対する「想い」をみんなで共有して、よりよい三沢市を実現できるように「協働のまちづくり」を推進していきます。